



地震予知衛星打ち上げプロジェクト寄付金のお願い

(一社)日本地震予知学会
会長 長尾年恭
理事 田辺祐嗣

地震予知研究に関心をお持ちの皆様、日本で初めての、地震先行現象研究に特化した人工衛星：日本大学理工学部・山崎政彦研究室が開発中の超小型衛星「プレリュード」の作成資金が不足しています。そこで、我々も衛星作成のための寄付金集めに協力をしていく事にいたしました。

宇宙から電磁気学的な観測を人工衛星で観測することで、地下で起る地震の先行現象が観測される可能性のある事が1990年代より明らかになってきました。フランスは2004年先行現象観測に特化した「デメーター」衛星を打ち上げ、中国は2018年2月に「CSES衛星1号機」を打ち上げました。

日本も地震先行現象研究の小型衛星の必要性を長年 JAXA(宇宙航空研究開発機構)に説明し、2023年に日本大学理工学部・山崎政彦准教授を研究主幹として開発中の超小型衛星「プレリュード」*が JAXA の革新的衛星技術実証プログラムに選定されました。この衛星で地震先行現象の科学的理解が飛躍的に進む事が期待されます。

https://www.cst.nihon-u.ac.jp/news/detail/20230214_1435.html

衛星作成は佳境に入っており、日本大学、静岡県立大学、東海大学や UNISEC (大学宇宙工学コンソーシアム) 等がすでに4,500万円ほどの資金をこの衛星作成に支出して参りました。

<https://unisec.jp/unisec/about>

ところがウクライナ紛争等の影響で、半導体や部品値上がり、各種試験費用の値上がり等で、今年度中の資金(緊急)が約800万円不足しており、この不足額を来年1月位迄に集める事が急務となっております。

参考:山崎研究室 YouTube <https://www.youtube.com/shorts/EiHQCENSy38>

ご寄付は以下のホームページから UNISEC へお願い致します。なお UNISEC は認定 NPO 法人であり、寄付者は **税制優遇処置**を受けることが出来ます(還付金は最大40%、クレジットカード、銀行振込、他)。また UNISEC へのメッセージ欄には「プレリュード衛星支援のため」として頂ければ幸いです。なおご寄付下さいました皆さまには、確定申告で使える寄付証明書をご指定の住所に郵送いたします。

<https://unisec.jp/support/donation>



ご寄付のための
ホームページの (UNISEC)
QR コード

日本大学・山崎研究室の様子など
(3分45秒)



NPO法人 大学宇宙工学コンソーシアム UNISEC事務局
〒113-0032 東京都文京区弥生 2-3-2 セントラル弥生 2F
E-mail: info@unisec.jp

参考:なぜ宇宙から地震予知研究を行うのか

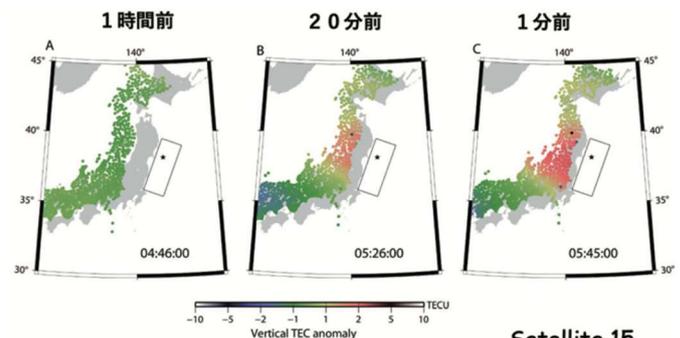
日本周辺ではマグニチュード(M)7クラス(たとえば能登半島地震や阪神大震災、熊本地震等)は1年に1個程度しか発生しません。M8クラスとなると10年に1個程度です。しかし衛星観測では全世界の地震を対象に研究を行う事が可能であり、日本だけで観測するより約10倍の地震を観測する事が可能です。

さらに東日本大震災発生の40分ほど前から電離圏の電子密度が震源地上空のみ非常に大きくなっていった事が発見されました。そしてこの電子密度の上昇を衛星観測が可能になってからのデータをすべて解析した所、データが存在したマグニチュード8クラスの巨大地震18例の全てで全く同じ異常が検出されたのです。

ぜひ次の記事も参考にして頂ければと思います。

地震予知研究の最前線

https://www.spf.org/opri/newsletter/570_3.html



Satellite 15
東日本大震災の直前に観測された電離圏の異常
(北海道大学・日置による)

*本衛星の設計および開発は日本大学理工学部と静岡県立大学グローバル地域センターが共同で実施しました